ICT活用NEWS no.42
Information & Communication Technology
平成３０年２月２８日（水）発行
日野市教育委員会ICT活用教育推進室

STUDYNET 「テキストマーキング機能」を活用した国語の授業（滝合小学校）

▶STUDYNET（スタディネット）の「テキストマーキング機能」とは？
　先生は学習者のタブレットPCに文章を配信。学習者がそれぞれ感じたことをマークし、自分のコメントを入力。それぞれの学習者がどこに注目し、どのようにコメントしたかを共有することで、とらえ方・感じ方の違いを知り、自分の考え方をさらに発展させることができます。

＜５－１・熊見隆生先生の授業より…「わらぐつの中の神様」＞

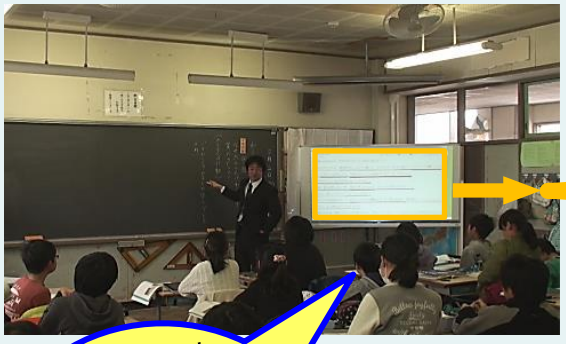
①先生は児童のタブレットPCへ文章を配信後、
　*「大工さんがわらぐつを買った理由がわかると思う部分」*を赤でマーキングするように指示

授業の展開により、マーキングの色は黄色、青、緑、ピンクと合計5色使用可能。
★例）「主人公の気持ちに共感できる部分は赤、共感できない部分は青でマーキングしてね。」

②児童は各自、文を指でなぞってマーキングして送信

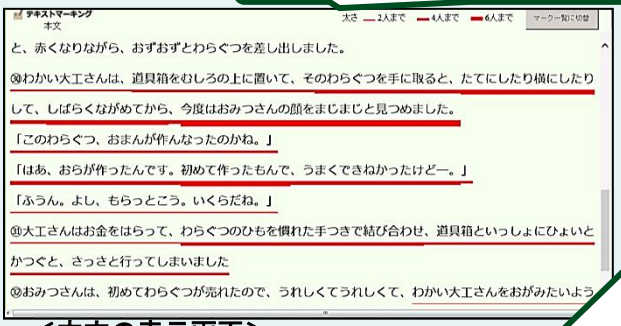
線が太いほどマーキングした学習者が多い

③前の画面でマーキングした部分の共有化



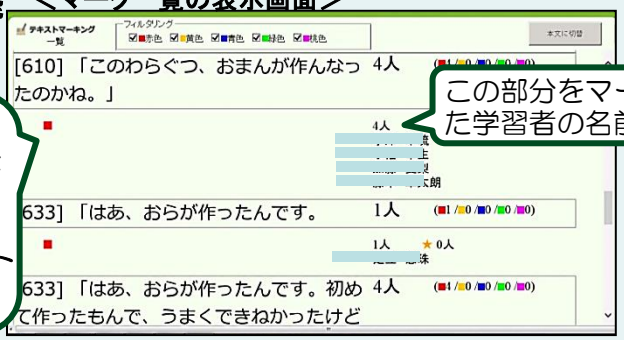
新しく各校に入った**短焦点型プロジェクター**をホワイトボードのすぐ前に設置。画面を大きく映します！

切り替え可能



＜本文の表示画面＞

＜マーク一覧の表示画面＞



この部分をマーキングした学習者の名前と人数

学習者がコメント（マーキングの理由など）を書いたら、ここに表示される（この授業ではコメント書かず）

この二つの画面は、学習者のタブレットPCでも切り替えて手元で自由に見ることができる（この授業では前の画面だけ使用）

＜メディアコーディネーターより＞　「とにかく使えるものは使ってみよう！」という気持ちで、熊見先生はいろいろなICT機器の活用に挑戦してくださっています。
　授業では「テキストマーキング機能」を活用しても児童にコメントは書かせません。入力に時間がかかる児童もいるからです。マーキングした児童の名前が表示される機能を活用し、何人かを指名して考えを発表させ、他の児童の思考を活性化させたり、この活動をもとに小グループで話し合いをさせたりします。「テキストマーキング機能」の中で、マーキングした部分を前の画面で共有化するという機能のみを活用する授業は、従来の一斉授業の流れを大きく崩さないままでも、ICT活用により「主体的・対話的で深い学び」へつなげていきやすいと実感します。熊見先生、今後もぜひ様々な挑戦をお願いいたします！